

## SSH、全国1位の評価をいただきました!!

7月20日(月)文部科学省がSSH(平成29年度指定)の中間評価結果を公表しました。

この中間評価は指定から3年目の学校について、文科省SSH企画評価会議協力者が評価を行い、SSH指定校のさらなる改善を促すものです。

令和元年度SSH中間評価対象校77校のうち、半数近くの学校が「改善や努力が必要」と、厳しい評価を受ける中、**若狭高校のSSH事業は最高ランクである【5 優れた取組状況である】と評価されました。最高ランクの評価を受けた学校は、全国でも若狭高校を含む6校(7.8%)しかありません。県内SSH校で最高ランクの評価を受けた前例もありません。**

また項目別評価点を計算したところ、最高ランクの学校の中でも、**若狭高校は全国1位の評価**であることもわかりました。(岡山県立玉島高校と同率)

### 若狭高校が高い評価を受けた理由

(文部科学省の示した評価コメントより)

- ・全ての学科において理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっていること。
- ・各学科の特色を活かして3年間を通じた課題研究を実施していること。
- ・海外研修や国際シンポジウムで発表ができる高度なレベルの理数課題研究を実現していること。
- ・学校設定教科「探究」の指導案や教材、「基礎科学」における地域資源を題材とした教材等、特色ある教材開発を積極的に行い、全てホームページ上で公開するなど積極的に発信していること。
- ・アメリカのスタンフォード大学やカリフォルニア州立大学バークレー校、京都大学など、最先端の研究に触れる機会や研究交流の場を国内外において様々な形で設定し、国際科学オリンピックや科学の甲子園予選に多くの生徒が参加していること。

#### 特集 必要な資質・能力の学び方

学内外を巻き込んで学びの循環を持續

### 探究の面白さを体感できる高校生活が一生ものの“学習観”をつくる

高校での学びは、大学等への進学後、さらには社会人になってからも学び続ける資質・能力の育成につながるのだろうか。SSH認定校として高く評価される若狭高等学校(福井県)の探究学習を中心とした学びから見てきたのは、「楽しくなければ、探究じゃない」という学習観だった。

#### 70年以上貫く教育理念のもと コロナ禍でも世界と意見交換

文部科学省は2020年7月20日、スーパーサイエンスハイスクール(以下、SSH)の2017年度指定校について中間評価を発表した。対象77校のうち、わずか6校だけが最高評価を獲得。そのひとつが福井県立若狭高等学校である。同校(全日制)には国際探究科、普通科、理数探究科、海洋科学科の4学科があり、70年以上前から「異質のものに対する理解と寛容の精神(Diversity)」と「教養豊かな社会人の育成(Liberal Arts)」を教育目標に掲げてきた。

った貴重な機会をいただきました。生徒たちの将来の目標は医師から漁師まで、まさにダイバーシティです」と、校長の中森一郎氏は語る。

今年度はコロナ禍に見舞われたが、5月の連休明けには「Google Classroom」をフル活用してオンライン授業を開始。教室からZoomで「世界教育会議」に参加したり、自宅からフィリピンDLSL高校の生徒たちと意見交換を行ったりしている。「2015年からスカイプで海外交流を行うなどICT環境には慣れていました。都会との地域間格差も解消できますし、今回のことでも世界との距離が近くなった感じがします」と中森校長は話す。



左から、小坂康之海洋科学科教師、中森一郎校長、渡邊久輔SSH研究部部長

に学ぶ姿勢を見せてくれることが、探究学習の本来の姿でしょう。もちろん、教員による耕しは必要ですが、何かを教えなければと気負うのではな

シンガポールテマセック  
ジュニアカレッジ  
との生徒交流→



Cal Berkeley

←カリフォルニア州立大学  
バークレー校との研究交流



高度なレベルの理数課題研究  
を実現するための学習→



↑雑誌「先端教育」に取り上げられました。  
Yahoo ニュースにも取り上げられ、若狭高校の取組については全国でも高い注目を集めています。

# International Environmental Forum 2020 開催しました!!



↑↑↑↑↑↑  
代表生徒が発表を行う様子

7月18日(土) SSH 研究交流会「International Environmental Forum 2020」を開催しました。今年度はコロナウイルスの影響で開催が危ぶまれていましたが、ZOOMを利用して別々の会場にいる参加者を繋げる形式にすることで、県内外・海外の参加者と、研究発表を通じた交流ができました。

はじめに特に研究内容が優秀であると認められた代表3グループによる全体発表が行われ、その後複数会場に分かれての分野別発表が行われました。一部の希望生徒は海外からの参加者ととも研究発表会をすべて英語で進行了しました。

発表生徒はこれまでの探究活動の成果について工夫を凝らした発表で伝え、また見学していた生徒も今後の自分たちの探究活動に生かそうと熱心に研究内容を聞く様子が見られました。講師の先生方からは研究内容についての専門的な指摘・助言をいただくことができ、全ての参加者が環境・科学について、そして各自が取り組んでいる探究学習について深められる機会となりました。

専門的な指摘・助言をいただくことができ、全ての参加者が環境・科学について、そして各自が取り組んでいる探究学習について深められる機会となりました。

## 【参加校】

- 国内  
福井県立高志高等学校、福井県立鯖江高等学校  
福井県立武生高等学校、青森県立青森高等学校  
京都光華高等学校、京都府立西舞鶴高等学校  
兵庫県立豊岡高等学校
- 海外  
Philippine :  
Ateneo de Davao University High School  
De La Salle Lipa University High School  
Taiwan :  
Nuan-Nuan High School  
Zhong-Shan High School

## 【講師】

- |                                                                    |                                                |
|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 福井大学附属国際原子力工学研究所                                                   | 教授 泉 佳伸 先生                                     |
| 福井県立大学海洋生物資源学部                                                     | 学部長・教授 横山 芳博 先生                                |
| 大阪教育大学教育学部                                                         | 准教授 八田 幸恵 先生                                   |
| 日本電産テクノモータ株式会社 空調開発部                                               | 次長 田中 宏忠 先生                                    |
| 福井県教育総合研究所                                                         | 所長 牧野 行治 先生                                    |
| 福井県教育庁 高校教育課                                                       | 指導主事 橋本 貴志 先生                                  |
| University of the RyuKyus Biological Course,<br>Faculty of Science | Associate professor James Reimer               |
| University of Fukui Graduate school of Education                   | Assistant professor Pauline Malaya Mangulabnan |

- 会の終わりに講師の先生方から講評をいただきました。一部を紹介します。

本日の皆さんの研究発表を見せてもらって、発表資料の構成、見栄えの良さ、プレゼンテーションの技術、こういった発表の仕方に関するところは、日頃の授業の賜物だと思いました。高校生ならではの若々しさが溢れていて素晴らしい。高校生のうちから、仮説を立てて検証を行いデータと向き合う経験をしていることは、皆さんの今後の人生において大きな財産となるでしょう。

一方で、ほかの人の発表を聞いているときの質問の少なさが目立ちました。研究は、「疑問を相手に投げかけ議論する」ことで発展していきます。これは社会に出てからも同様です。今のうちから積極的に質問してください。他者と意見をぶつけ合うことを恐れなくてください。

福井大学附属国際原子力工学研究所  
泉 佳伸 教授

高校生という若い世代から科学や環境について興味・情熱を持ち、新しいアイデアに挑戦する姿が見られて良かったです。今日の発表テーマは全て、将来更に重要になる内容で、生態系・環境を守るには人々の助けが必要です。将来どのような進路にすすもうと、環境のために自分のできることをやってほしいです。英語については現在のサイエンス分野では共通言語は80%が英語です。(講師の)研究室は11か国の人が入って英語が母語の人は誰もいない中であっても、互いにコミュニケーションはとれています。台湾・日本の生徒は英語が母語ではないが、コミュニケーションをとるために失敗を恐れずに研鑽を続けましょう。自分たちの研究は小さいとか重要ではないと思っているかもしれませんが、無駄な科学はありません。自分の好きなことの探究を続けて、コミュニケーションを続けてほしいです。

琉球大学理学部  
ライマー ジェームス 准教授

↓↓台湾・フィリピンの生徒とZOOM を利用し、英語でのディスカッションを行っている様子↓↓

